

# 築城450年事業調査特別委員会中間報告(要約)

本市は、平成29年に三原城築城450年を迎えます。

市はこれに向けて『瀬戸内三原築城450年事業』を実施し、三原の資源に光を当て、市内外にその魅力を発信し、『観光のまち、三原』を実現することとしています。

議会においても、行政や各種団体、市民とともに、本事業の成功に向けて取り組む必要があることから、調査・研究を行うため、平成27年12月定

例会において、13人の委員をもって本委員会が設置されました。

先般のプレオープニングセレモニーにおいて、市長は、『三原城築城以来、450年という歴史の中で培われた三原の魅力、観光資源をこの機会に見つめ直し、新たな三原を創造することで未来に活かしていかねばならない。また、本事業を契機として、さらには平成30年以降へもつながる『瀬戸内元気都市み



隆景広場の小早川隆景像とやっさだるマン

はら』の実現に向けて、官民一体となつて取り組んでいく」と述べられています。本委員会としても、この事業を、本市の将来のまちづくりにつなげていくための起爆剤であると認識しております。

## 委員会の設置

以来、今日まで2回、関係理事者に出席を求め、質疑を行いました。それでは、これまでの委員会で議論の経過と委員から出された質疑、意見の主な内容について、報告いたします。



築城450年事業推進担当室の事務所

**Q** 本事業の市内外への情報発信は、どのようにするのか。  
**A** 市民に身近なところから、機運を盛り上げていく周知に加えて、ペアシティ三原西館の市民ギャラリーを活用した関連資料等の展示や、映像資料『小早川隆景ものがたり』をYouTubeなど様々な媒体を使って周知していくことなども、今後、検討していく。

**Q** 本事業の市内外への情報発信は、どのようにするのか。  
**A** 市民に身近なところから、機運を盛り上げていく周知に加えて、ペアシティ三原西館の市民ギャラリーを活用した関連資料等の展示や、映像資料『小早川隆景ものがたり』をYouTubeなど様々な媒体を使って周知していくことなども、今後、検討していく。

**Q** 本事業の市内外への情報発信は、どのようにするのか。  
**A** 市民に身近なところから、機運を盛り上げていく周知に加えて、ペアシティ三原西館の市民ギャラリーを活用した関連資料等の展示や、映像資料『小早川隆景ものがたり』をYouTubeなど様々な媒体を使って周知していくことなども、今後、検討していく。



築城450年事業プレオープニングセレモニー

また、築城450年事業終了後も『観光のまち、三原』の魅力を発信していくために、観光協会のホームページの充実を図っていく。

**Q** 市役所内での意識向上の取り組みは、どのようにするのか。  
**A** 市の組織を挙げて取り組むべきというのが基本的認識である。市職員を対象に、『小早川隆景』『三原城』などの歴史文化資源についての研修を実施し、郷土に対する認識を深めた上で、市民とともにこの事業への関わりを強めていく。

**Q** 本事業をきっかけとした今後のまちづくりの取り組みは、どのようなものか。  
**A** 本事業が終了した平成30年以降のまちづくりには市民活動団体の協力が不可欠であり、『人材育成』が大きな課題であると認識している。事業提案をしている団体をいかに育てつつ実施していくか、また、今後の事業の継続をどのようにして図っていくか、補助のあり方を含め検討していく。一過性に終わらせることなく、今後の三原が元気になるべくしていくように

という思いを込めて事業を進めていく。また、将来のまちづくり、人づくりに関わる学校教育の取り組みとして、歴史映像資料を幼稚園や小中学校へ配布し、地元の歴史認識を深め、故郷に対する誇りや愛着心を醸成していく取り組みを検討している。

### 【意見】

この事業は『食』の分野が盛り上げのための重要なツールとなる。収益の観点も持って、商業団体を積極的に取り込んで

いく必要があり、早急に働きかけをすべきである。

### 【まとめ】

『瀬戸内三原 築城450年事業』は、『小早川隆景』『三原城』をはじめとした三原の歴史や文化を再認識し、次世代に郷土の歴史を伝えていく取り組みの起点となります。あらためて、郷土に対する歴史認識を深め、ふるさと三原に対する郷土愛を育んでいくことが、将来のまちづくり、人づくりのために必要です。



トイレやあずまやなど周辺整備が進む三原城跡

の事業を盛大に盛り上げていくとともに、今後の『観光のまち、三原』の実現に向けても、これらを積極的かつ有効に活用していくべきでありま

て各種事業を実施していくことができると思います。市の組織を挙げてこれに取り組んで頂くことを要望するとともに、各種事業の調整や取りまとめを担う『コーディネーター』に、本事業を成功へと導くため、全体を統括する司令塔として強いリーダーシップを期待します。

以上、築城450年事業調査特別委員会の中間報告といたします。

本委員会においては、

この事業に積極的に関わっていくことを確認したと

は、推進協議会を中心に官民一体となって築城450年事業の成功に向け

確認したと



築城450年事業のPR法被

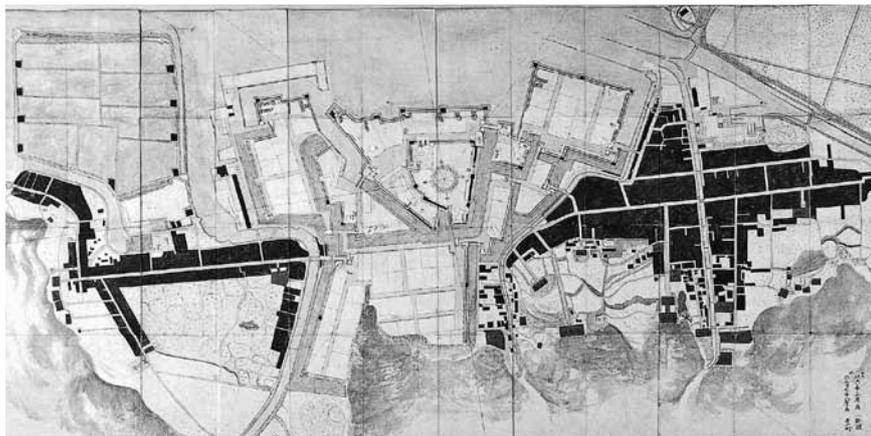
また、築城450年事業は、本市が『観光のまち、三原』を指すための最大の契機であり、将来のまちの活性化につなげていく絶好の機会でもありません。例えば、この事業をきっかけ

として、現在、駅前を中心で開催されている『三原浮城まつり』を充実、拡大し、祭りの賑わいをより広範囲に波及させる取り組みを今後検討していくことも、将来のより一層の中心市街地活性化につながるのではないかと考えます。



船入櫓跡

本市は、駅、港、空港と交通アクセスに恵まれており、陸、海、空からこのまちへの観光誘客を図り、一連



紙本著色備後三原絵図 (三原市立中央図書館所蔵)